片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱
題字　黒崎敬濵氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

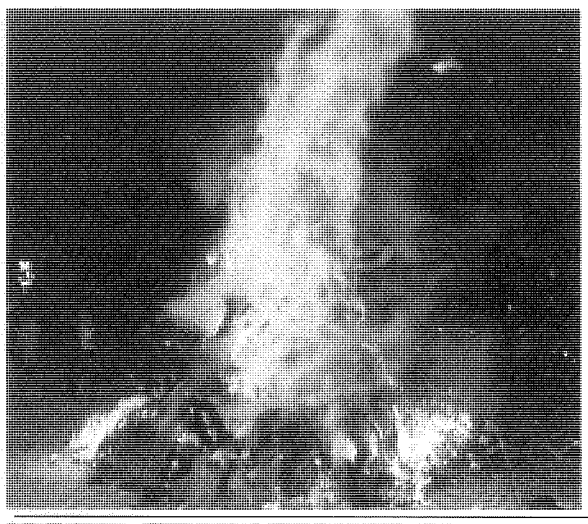
つぐみ会今年も頑張る
伝統行事塞の神終わる
20才、33才、42才など決意新た

小正月の一大イベント、塞の神行事が1月15日昼夜にわたり浅原神社で盛大に開催された。特に夜の部は参道にズラリと百八灯のロウソクが並び、しろがね会（42才）による福餅まきが行なわれその最中、大塞の神に点火、大きな炎となり周囲を照らし出し、火にあたったり、スルメや餅をあぶり口にして一年の健康祈願をする人達で境内は活気を浴びていた。

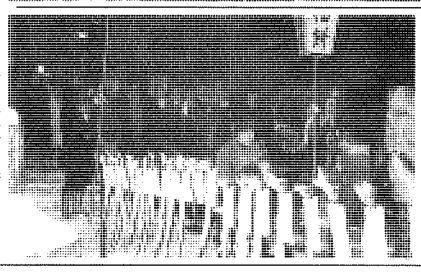
また、神社裏手の斜面いっぱいに、無数のほんやら洞が出現、幻想的な雰囲気を演出した。これは一昨年42才を迎えたつぐみ会が、昨年に続き自主的に実施したもので、独自に「一王洞」と命名している。

昼の部も商工振興会と煙火協会による福餅まき、小若連によるモックラモチ、おんまいど、小塞の神などを行なった。

例年どおり境内には露店が立ち並んだ。


▶燃えさかる塞の神　無病息災を祈る

▶福よ飛んでこい


▶厄年　木遣り奉納

主張

今、地元議員の任務が問われる

現在片貝町出身の議員は四名で、各々の立場で活動していると推察する。選挙の時は「地域発展のために努力します」とそれぞれが公約していた。

先日片貝地区に、佐藤邸跡地を福祉センターにしたらどうかと云うチラシが配布され、正直云って驚いた。今更と云う感じを強く持たざるを得なかった。何故なら片貝町協議会を中心に数年にわたる検討と陳情を繰り返し、市当局も町民の意志を尊重し、すでに都市公園として土地を購入、平成十年度に工事予算を計上し着工の運びになっているからである。これの受け入れのため片貝では、ふれあい公園促進委員会を設置し、活動を始めている。チラシを出した議員の提案で数年前、片貝フォーラムを開催したが、それでもまだ不足だとの主張でアンケートもとって集約したはずである。

片貝町が良くなるために議員の立場で意見を述べることは素晴らしいことであり、歓迎すべきであるが、一定の方向が出て、市当局も市議会もこれを承認した段階で今なお反対しているのは如何なものか。三名の議員は、公園づくりに賛成し、努力しているようであるから、議員同士よく話し合いをし、一日も早く立派な都市公園が出来るよう望むものである。他の地域や市長から「片貝がまとまらないのであればやらない方がよい」と云われ整備がもし遅れるようなことがあった場合は、誰が責任をとるのであろうか。

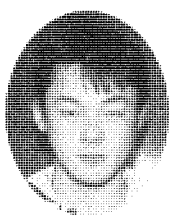
「片貝地区に、福祉センターを是非つくっていただきたい」と云うことは町民の願いであると思う。南部地区（真人地内）に建設予定の福祉センターは、今ある克雪センター（立派な機能を備えた建物）の隣接地に広大な土地を更に購入し、建物と施設だけで約三億五千万円の予算規模と聞いている。

さて片貝の人口は、南部より多いのではないかと思う。佐藤邸跡を目的外使用をしてまで狭い土地に、何故福祉センター構想になるのか理解出来ない。議員が四名もいるのであるから、将来の町づくりを構想しながら大きな視点に立って町民を指導して欲しいものである。

これからの福祉の拠点は、障害をもった人や老人だけでなしに、それを支える職員やボランティアなど大勢が集まる施設になるし、今までの老人層とは違い、これからの老人のほとんどが運転免許を持つ時代がすぐに到来する。加えて片貝の中心部だけでなく、北部全体のことを考えたなら、施設の性格からして、佐藤邸跡はふさわしくないのは明らかであろう。雪国の特殊性を考えるまでもなく、広い駐車場と一定の機能を持った施設でなくては、関係者の要望には答えられまい。

ふれあい公園は、公園として一日も早く完成させ、並行して福祉センター実現のためにお互いに努力していくことが片貝町の発展につながるものと確信する。地元の議員はその先頭に立って努力すべきであろう。

節目の代表の弁



輝龍会会長（20才）　山口謙太郎

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

11月から、私達輝龍会の最初の行事である塞の神の準備が始まりました。

初めは役員を決めても何をして良いのかも分からず不安と戸惑いの毎日でしたが、諸先輩方の御指導、関係者の方々の御協力により無事塞の神を成功させる事が出来ました。心からお礼申し上げます。

これから秋季大祭に向け役員を中心に輝龍会会員の心を一つにし、一生に一度しかない晴れ舞台を楽しみ一生懸命秋季大祭を盛り上げていきたいと思っております。

まだまだ若輩者の私達ですので皆様に御迷惑をおかけする事があると思いますが、皆様の温かい御支援、御指導を何卒よろしくお願い致します。

友心会会長（33才）　小宮美恵子

伝統あるこの地に生まれ子供の頃から花火の音を聞き、祭りと共に育った私達友心会も女性の厄年三十三歳を迎える年となりました。

十五日には浅原神社において御払いをして頂き、これを一つの節目とし、家庭・社会それぞれ責任ある立場において、自身をもっと向上させ、今後一層、活躍していってほしいと思います。

秋の秋季大祭に向けて、準備を進めておりますが、今は足踏みをしているばかりの状態なので、諸先輩方の御指導を頂きながら一歩一歩確実に進めて行きたいと思っております。

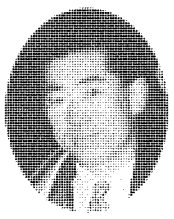
会の名前でもあるように、友の心を一つにし仲良く、楽しく頑張るをモットーに町外に出ている人に参加して良かった、良い思い出になったと言って頂けるように役員一同がんばりたいと思います。

町民の皆様、御支援、御指導をよろしくお願いいたします。

しろがね会会長（42才）　小野塚　昇

新年明けましておめでとうございます。

本年42才厄年を迎えた、しろがね会です。私達は、昭和31年32年生まれで、男性38名女性49名総会員数87名で男性については幸い町内在住者多く心強い会です。しろがねの名の由来は、片貝中学校25回卒で銀婚式の25年から銀をしろがねと読みしろがね会と命名しました。祭半纏には銀会と書いてあります。

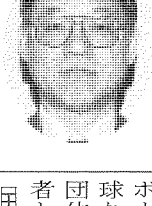


1月15日には厄祓行事を無事終了させていただいて会員一同よろこんでおります。福もちまきには大勢の皆さんから集まっていただき本当にありがとうございました。これから秋季大祭の奉納煙火に向けて心新たに出発です。しろがねの夢を大きくふくらませそして花火に託して開かせます。

厄祓いを期に健康管理に気をつけ仲よく楽しい会にしていきたいと思います。

となかい会長（52才）　吉井清一

私達「となかい」の同級生も、本年五十歳を迎えます。片貝の町で、二百余名の一番人数が多い学年で、前後のクラスも合わせ、学校はいつもスシ詰め状態でした。地域外のことなど余り耳に入らない頃の我々は、野に山にと、遊ぶことが日課だったように思います。



そんな仲間が、成人、厄年と年月がすぎ、今回も記念行事として秋季大祭に参加をしようと準備を始めました。

故郷片貝が、徐々に遠くなってしまうという話を聞くなかで、同級会会員一同が祭りという機会に、片貝に集まり、友情と親交をより一層深め、楽しい思い出となるよう願っております。

今日の大変な社会情勢の中で、牽引車の役目を負う私達が、もう一度自分を見つめ、一歩一歩確実に生きて行きたいと思います。

平成10年が皆様にとって明るく健やかな年であります様お祈り致します。

同心会会長（60才）　三重堀一郎

片貝町の皆様、明けまして、おめでとうございます。

経済不況、政治不信の中で平成十年でしたが、いかがお過しでしょうか。

私、同心会の三重堀でございます。昭和二十年四月、片貝国民学校入学、八月終戦、食糧難の時代を小中学生時代を過してまいりました。

以来五十数年、本年還暦と云う年齢となりました。

この間、多数の物故者がおられました。

その方々の御冥福をお祈りしながら、我々赤いチャチャコを黄色い法被に着替え、元気よく行進致したいと思います。

町内の皆様方の、御声援と、御協力を御願ひします。

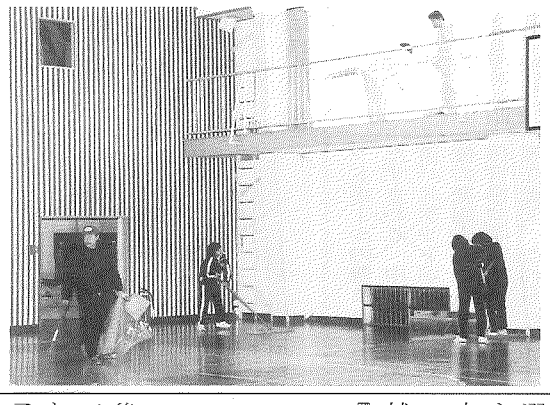
かたかい春秋

雪のない正月を迎え、今年も暖冬少雪かと思いきや、先月下旬から一級の寒気団の訪れによって猛烈に降り出し、県内の高速自動車道がズタズタとなった。▼一瞬にして交通をマヒさせてしまう自然の力の大きさをまざまざと再認識させられた感じである。しかし、どうせ降るのなら、12月末にスキーが出来る程度になっていたら、上越沿線の経済活動にどれほどプラスになっていたか知れぬのに、と今ら自然に対してグチめいたことをいってもせんなきことか。▼風邪が流行ってきたとのこと。2月4日が立春とは云え、雪国は積雪が一番多くなる時期であり、寒さもなお厳しく、風邪をひく要素が重なる。大学受験まっ盛りであり、これから高校入試も始まる。体調を整えて実力を充分に発揮されんことを願ってやまない。▼時として自分の思いどおりにならなくても、くさったり、絶望したりすることなかれ。ややもすると今は、入学することが最終目標となっている節があるが、大きな間違いである。志があれば第一目標とした学校でなくとも、充分学ぶことは可能である。よしんば学校など入れなかったとしても、志さえあれば、どんな環境にあろうとも学ぶことは出来る。▼人生そのものが学ぶことの連続であるべきで、長い人生の中で高校受験や大学受験は節目ではあろうが、合格したからといって将来に展望が開けたわけでは決してないし、まして絶望することなど少しもないのである。▼むしろ小欄は燃え尽き症候群にならないよう望みたい。世間では一流大学に進み一流企業に入社してそれで目的達成したと錯覚する人種が多いと聞く。人間とは、人生とは生そのものが学ぶことを自分に問うてみよう。

片貝スポセン大掃除
日頃利用の6団体が自主的に

一足遅い片貝スポーツセンターの大掃除が、利用者のボランティア精神に基づき、1月24日に行なわれた。

今回の大掃除はスポーツセンターを管理する片貝町モデル施設運営委員会（吉井陽会長）の呼びかけにより、日頃よく利用しているゲートボール、バスケットボール、卓球などの六団体の代表者と運営委員等約三十名が参加。普段は使用後に床掃除だけ行なうことになっているが、この日は日頃行き届かぬ隅隅までも丹念に磨きあげた。



この大掃除を機会に今後の掃除計画やゴミ出し当番などについても話し合った。

片貝中バレー
準々決勝で涙

樋口杯・金子杯・第13回新潟県中学校バレーボール選抜優勝大会（中体連など主催）が1月18日(日)、長岡市市民体育館で開催された。

片貝中学校バレー部は中越地区を代表して出場し、一回戦は不戦勝、二回戦は刈羽郡の刈羽中学校を第1セット15対5、第2セット15対10で下し、準々決勝では、第1セット15対11で勝ったものの第2セット3対15、第3セット2対15で父兄の応援むなしく破れた。

メンバーは次のとおり

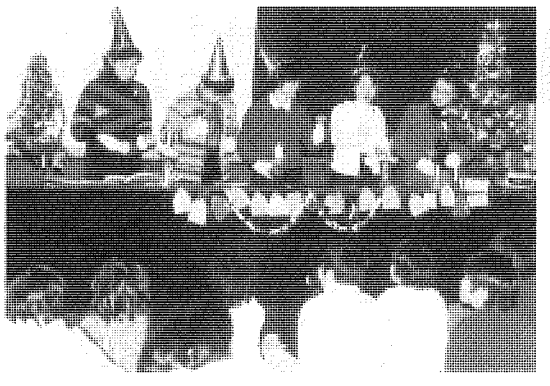
▽本田桃子、勝又裕子、安達奈美、太刀川佳江、吉原美香子、小林加奈、小宮渚、小宮梓、本田経子、藤塚千鶴子、小野塚愛、黒崎幸子

クリスマス会盛況
読みきかせ会の特別企画

読みきかせ会の昨年最後の活動が、去る12月21日午後一時半から片貝支所二階で「クリスマス特別企画」として開催され、十数名の子供達が参加して楽しいひと時を過ごした。

小学生の司会で進められ、子供達のハンドベルによる「きよしこの夜」でオープニング、読みきかせ「サンタクロースとこねこ」、紙しばい「いたずらきつね」、映画「いじわる狐ランボー」、その他に歌やゲームなど盛り沢山のメニューで盛り上がった。

読みきかせ会は一月と二月は休み、三月から再開する予定。



ふれあい抽せん会盛況

新春の農協アイディア企画

JA片貝町（佐藤仁組合長）は、昨年に引き続き「新春ふれあい抽せん会」を正月の4日、片貝の農協庁舎脇と高梨支所の二会場で開催した。

この「新春ふれあい抽せん会」は、12月のキャンペーンで、貯金の預け入れ、生活センターでの買い物、米購入、ガソリン、石油など全てに抽せん券及び補助券を発行して実施した。

一等は三千円相当の福袋（五十本）、二等千五百円相当の福袋（百本）、以下五等まで空クジなしで、大変好評を得た。両会場合わせて千二百九十名が繰り出し、昨年より二百名近く多かった。一人六十本の抽せんが最高だった。

両会場では御神酒、甘酒、タラ汁、風船などが気前よく振る舞われ活気に満ちていた。

JA片貝町が長寿者祝う

JA片貝町（佐藤仁組合長）では今年も米寿を迎えた管内32名（男11名、女21名）にお祝い状と金杯、お菓子を本人に届け長寿を祝った。今年の米寿を迎えた人達は次のとおり。敬称略（）内は町内、生年月日、世帯主。

▽諸我ハナ（一之町、明治44年11月2日、昭一）、▽大塚ハル（一之町、44年1月2日、太郎）、▽郷弥（一之町、44年4月15日、徳弥）▽吉原周作（一之町、44年8月2日、弘一）、▽相崎ハナ（寺町、44年2月26日、静一）、▽小林源次（寺町、44年3月22日、潔）、▽本田勇太郎（寺町、44年6月17日、五郎）、▽品田トウ（寺町、44年8月8日、耕一）、▽高橋猪之助（五区、44年1月29日、一彦）、▽太刀川ハマ（五区、44年5月1日）、▽浅田米吉（町裏、44年1月8日）、▽浅田マツ（町裏、44年7月22日、米吉）、▽太刀川市太郎（町裏、44年8月1日、洋一）、▽大矢マツ（町裏、44年6月10日、益八）、▽相崎四四（二之町、44年1月20日、理）、▽黒崎イク（三之町、44年5月27日、庄之輔）、▽谷内政雄（三之町、44年8月2日、清）、▽吉井フミ（屋敷、44年3月10日、幸敏）、▽佐藤精太郎（屋敷、44年6月10日、ハツエ）、▽野中イツ（四之町、44年3月8日、和三）、▽大塚フヂノ（四之町、44年4月26日、芳松）、▽小林吉次（四之町、44年5月25日、昭一）、▽吉原キヨ（五之町、44年10月20日、洋二）、▽安達イシ（八島、44年1月12日、幸一）、▽安達セミ（八島、44年8月25日、茂）、▽本田カネ（沼田、44年7月28日、正史）、▽堀井キサ（池津、44年3月25日、信夫）、▽丸山榮太郎（鴻巣、44年2月10日、浅一郎）、▽丸山ハナ（鴻巣、44年3月4日、浅一郎）、▽鳥羽ミツエ（高梨、44年11月12日、貞生）、▽山崎キイ（五辺、44年2月26日生、近成）、▽大平キヨ（五辺、44年3月10日、正吾）

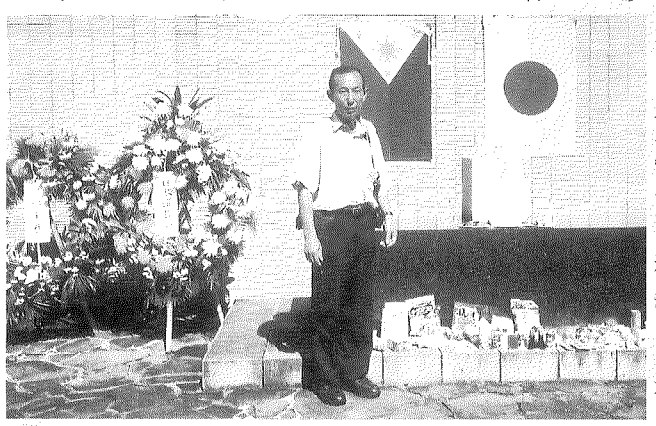
戦後50年にして父と再会果す

三之町　黒崎庄之輔

フィリピン慰霊友好親善訪問団（主体　日本遺族会・協力　日本政府）の事業によるさきの大戦により海外で戦没された方の遺児が旧主要戦域を訪れ、同地域に居住する先の大戦の関係者と共にその地域の実情に合った友好親善並び慰霊追悼を行なう事業であり、16年生まれで戦争も知らない父の顔もわからない私でも、一度は「お父さん」と呼びたく50年にしてフィリピンの地を訪れる事が出来ました。

参加者は全国から100名で1組20名編成で5組に別れて、新潟県からは4名の参加者で8日間の旅でした。

出発前には靖国神社でお払いを受け、暑いフィリピンに着き日本大使館に挨拶をし、毎日5班に別れて何時間と車に揺られ道の悪い山の中、船や飛行機で各島へ各自の父の眠る地を探しながら訪れ小さな祭壇や両国の国旗を掲げ、靖国神社の御酒、生花、果物そして父のすきだったお供物をさげ、般若心経等や追悼の言葉を読み上げるのですが、涙が流れうまく言葉にならず遠くから父の声で「皆元気かよく来てくれた」と微かに聞こえてきます。日本は資源のない国でフィリピンが重要な中心の島であったにしても、どうして何日間も掛け山の奥へと入っていったのだろう、食べ物はどうしていたのか。病気にはかからなかったのだろうかと色々のことが頭の中に飛び込んできます。



各地で供養を行なっていますと、どことなく大人や子供達が物珍しく数えきれない人達で取り囲み物を欲しさに集まり、何かをあげるとそのすが、50年の歳月がたつと現地に行く人達も年を取り慰霊塔は草村のジャングル、建物は村の教会となっています。

山の中の小さな小学校へ友好親善訪問として、ボールペン、Tシャツ、ノート等、先生にはチョーク等を贈り短時間でしたが、言葉の通じない生徒と楽しく写真を取り、折り紙を折りながら友好を深めました。

最後の日は全員で広い敷地の国立公園予定地の中で51万8余命の比島戦没者の碑で日本大使をお招きして全戦没者追悼式で冥福を祈りました。

今回の参加で父の本当の戦死場所がわかりました。

これからも、戦争のない恒久平和をお祈りします。

戦争のころの様子です。戦後間もなく戦友や連れ合いが各地に慰霊塔や慰霊の建物を建てたので嬉しい笑い顔を浮かべるのです。フィリピンでは貧富の差が激しく日本のように、友好親善訪問団の事業が、戦争のない恒久平和をお祈りしました。

ベルマーク収集に協力を

片貝小学校では子供と保護者が協力してベルマーク収集活動を展開しており、町民の協力を呼びかけている。

ベルマークは一点一円になり、今までに鼓笛隊のユニホームを初め様々な教材が購入出来ている。平成9年度も既に三回の回収作業を終了しており、六万五千円以上の成果となっている。

収集箱は片貝小学校、片貝中学校、片貝保育園、JA片貝町生活センター、佐藤写真館、八百彦、魚金に設置してあるが、小学生に直接渡しても可。

ベルマークはノート類、ラーメン、焼ソバ、ガム、チョコレート、カレー、ハミガキ粉、マヨネーズ、フィルム、ティッシュ、冷凍食品、マカロニ、サラダ油、カレーなど多数の商品についている。

惜しい！2点差で2位

中学親善バスケット

第29回中越地区中学校親善バスケットボール大会（主催＝片貝町体育協会、後援＝市教育委員会、片貝中学校同窓会、主管＝片貝町バスケットボール協会、片貝中学校）が、1月18日中越の強豪12チームを片貝中に集めて開催され、片貝中学校は決勝戦で僅か2点差で破れ準優勝。

片貝中はシードされ二回戦から登場した。

片貝中69（43－17、26－34）51十日町
片貝中52（34－18、18－19）37堤岡中

二回戦、準決勝戦共に前半大量リードで、後半は試合に慣れさせるために一年生を出場させる余裕ぶり。

しかし決勝戦の宮内中は身長190cm、185cmと二人も大型選手がおり前半から苦戦、片貝中はなかなかシュートが決まらず11対19と8点のリードを許した。後半は逆に23対17と優位に戦ったが結局34対36で惜敗した。

メンバーは次のとおり

▽小比田集也、安部勇樹、山口透、小比田弘樹、高橋一明、浅田和穂、大矢論志、佐藤佑一、小林亮太、目崎慎吾、市川慎吾、吉原佑、本田佑輔、山口直紀、吉田英。なお小千谷中は初戦で敗退した。

バスケの功労者

松井さんを祝う会

一昨年10月市体育協会創立50周年記念式典の席上、バスケットボールの普及に尽力した功績により感謝状を受けた松井周二さん（73、二之町）を祝う会が、1月18日午後7時から美好亭で開催された。

松井さんは小学校からバスケットボールを始め、昭和17年長岡商業学校時代、全国大会（現在のインターハイ）に出場し、全国最優秀選手として表彰された。社会人となってからは、青年団チーム片貝クラブで北陸大会、全国大会に度々出場。戦後は片貝町のバスケットボールの普及と指導にたずさわり、中学校中越親善バスケットボール大会開催の発起人となる。片貝町体育協会副会長を永年務め、現在顧問。これら一連の活躍が評価され、一昨年感謝状を受けた。中越親善バスケットボール大会の生みの親的存在であることから、18日大会終了後の祝う会開催となった。

47名が出席、発起人代表の大矢孝四郎・片貝町体育協会長が挨拶の中で、松井さんの功績をたたえながら、「諸般の事情により祝う会が延びたが、松井さんと因縁深い第29回中越バスケットボール大会開催のきょう祝う会となった」と語った。松井さんは小学校五年からバスケットボールを始めたこと、家族は四世代続けてバスケットを行ない、三島郡大会四連覇や全国大会出場の輝かしい戦績、中越親善大会を始めた時の思い出話しなどを紹介しながら「73才ではあるが、生ある限りバスケットボールに力を注いで行きたい」としめくくった。

片貝ヒューマンウォッチング

バレーの高橋さん（片貝中）

今回は昨年12月25日から大阪府立体育館で開催された「第11回さわやか杯全国都道府県対抗バレーボール大会」に、新潟県選抜チームの一員として出場した片貝中学校三年生の高橋麻美さん（15、四之町）に登場願った。ヒューマンウォッチング始まって以来最年少である。

高橋さんは身長163cm、バレーボール選手としては決して長身ではないものの、抜群のジャンプ力で、片貝中のエースとして中越大会、県大会などで活躍、それが認められてさわやか杯の県チームの一員に選ばれた。

県チームの結果は予選リーグで宮城県に第一セット12対15、第二セット15対17でせり負けてしまった。静岡県には第一セット15対12、第二セット3対15、第三セット15対12で勝利、しかし決勝トーナメント進出はならなかった。

だが高橋さんには悔はない。さわやか杯の県メンバーに選ばれると思っていなかったそうなので、選ばれたことに大きな喜びがあった。県チームの一員として8月から合同練習に参加、普通の中学生が経験出来ないことを出来た、との喜びがあるからだという。そして大会々場となった大阪府立体育館の大きさにびっくりしたことが、今もはっきりと脳裏に浮かぶ。

「バレーボールの魅力は」の質問には「一つのボールを落ちるまで追いかけること」と明解な答えが返ってきた。バレーボールに打ち込んだ3年間を振り返り、嬉しかったことはさわやか杯に出場出来たこと、悔しかったことは片貝中が県大会の二回戦で負けてしまったこと、そして楽しかったことはバレーボールの大会で様々な所へ遠征できたこと。

高校へ進んでもバレーボールを続ける決心で、今はそのための受験勉強に余念がない。将来の夢はまだ決まっていない、とくったくがないが、15の春が最良の形で迎えられるよう、小欄も祈っている。

ハローベイビー

○大矢優一（ゆういち）ちゃん（町裏二区）
パパ浩三さん（40才）
ママ久美子さん（35才）
第3子長男
平成9年2月2日生
現在の体重8.5kg身長75cm

Q名前の由来
A優しくまっすぐに、育ってほしいという願いをこめてつけました。

Qお子さんの様子
Aとにかく、元気がよく、つかまり立ちをして、テーブルの上の物を何でも取ってなげたり、食事の時、手をのばして、こぼしたりして、目がはなせません。

Qどんな子に育って欲しいですか
A何か輝くものを持ち、いつも夢をもって、どんどん未来に向かって歩んでいってほしい。